

## 不透明感による在庫圧縮と日中問題が日本の輸出を下押し (11月貿易統計)

11月の輸出は、円安により名目は下げ止まりも、実質では減少が止まらず。世界的な不透明感による在庫圧縮と日中問題が、日本の輸出を下押し。燃料輸入の拡大と、輸送用機器や電気機器における生産の海外移転を背景に、輸入は高水準を維持。10～12月期も、外需は成長を大きく下押し。

### 輸出は円安で下げ止まりも、実質ベースでは減少

財務省が公表した11月の貿易統計によると、輸出額(名目輸出)は前年比 4.1%(10月 6.5%)とマイナス幅こそ若干縮小したが、5ヶ月連続で減少した。財務省試算の季節調整値では前月比 0.1%(10月 2.8%)と下げ止まったように見えるが、円安による輸出価格の上昇を割り引く必要がある。11月の輸出価格は貿易統計の輸出価格指数が前月比 2.4%、日本銀行公表の輸出物価指数でも 1.3%と明確に上昇した(共に原系列)。当社が、主要な類別に輸出物価指数により実質化を施し季節調整を行ったベースで見ると、輸出は11月も前月比 1.6%(10月 3.6%)と減少し、未だ下げ止まってはいない。減少は5ヶ月連続に及ぶ。こうした動きは財務省が公表している輸出数量指数に季節調整を施した場合でも大きく変わらない(10月 2.5%、11月 1.3%)。

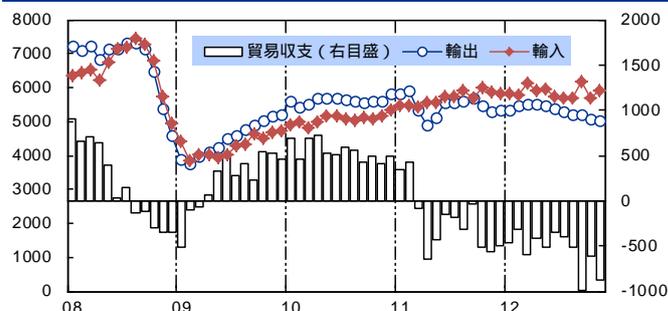
### 日中問題と不透明感による在庫圧縮が輸出下押し

実質・季節調整値で仕向け地別内訳を見ると、中国向けが自動車を中心に前月比 2.8%(10月 5.9%)と引き続き減少、輸出全体の伸びを 0.5Pt 押し下げている。日中問題が依然として、日本の輸出を下押ししていると判断できる。但し、11月の輸出は、米国向けこそ増加に転じたが、欧州向けを中心に他地域向けも多くが不冪えである。最終需要ベースでは、世界経済が7～9月期に底入れし10～12月期から回復へ転じたと判断されるが、欧州債務問題や米国の「財政の崖」など不透明材料が山積するで、企業は在庫圧縮による自己防衛を図っており、故に日本の輸出にも下押し圧力が及んでいると言える。日本の輸出が持ち直しへ向かうのは年明け以降になると見込まれる。

### 輸入は高水準継続

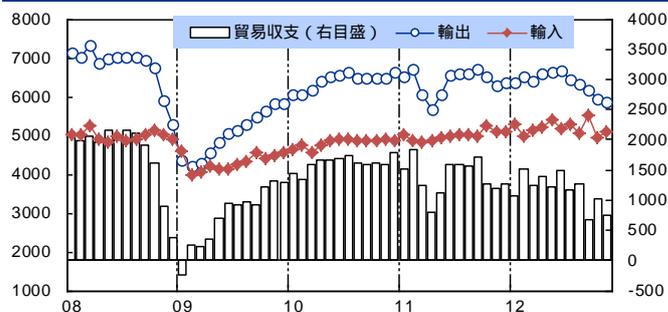
輸入額は11月に前年比 0.8%(10月 1.5%)と増加に転じた。季節調整値では10月に前月比 8.3%と落

#### 名目輸出入の推移(10億円、季調値)



(出所) 財務省

#### 実質輸出入の推移(10億円、季調値、2005年基準)



(出所) 財務省、日本銀行

#### 中国向け実質輸出(2010/1=100)



(出所) 財務省、日本銀行

ち込んだ後、11月は4.3%と大幅な増加である。10月の大幅減少は、化石燃料の輸入業者に対し新たに環境税が課税され、9月に駆け込み輸入が、10月はその反動が生じたためである。従って、11月の増加は、特殊要因の解消によるものに過ぎず、輸入の増勢が強まった訳ではない。とは言い、9~11月平均の輸入は、当社試算の実質ベースで見て1~8月平均とほぼ同水準であり、原発停止を背景とした燃料輸入の拡大と、輸送用機器や電気機器における生産の海外移転を背景に、輸入が高水準を続けていることも確認できる<sup>1</sup>。

## 貿易赤字は高水準、10~12月期も景気下押し

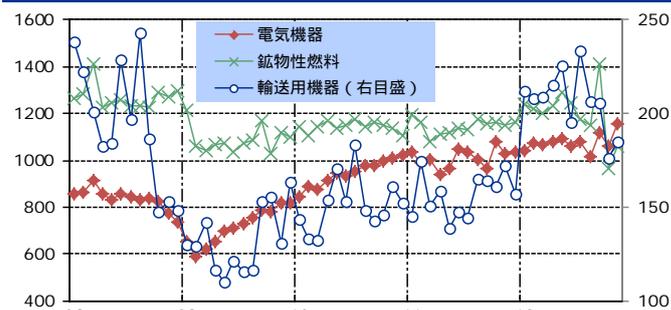
輸出低迷と輸入増加を受けて、11月の貿易赤字は原系列で9,534億円と1月に次ぐ高水準に達した。季節調整系列で見ても8,685億円と、上述した化石燃料の駆け込み輸入で赤字が膨らんだ9月の9,893億円に次ぐ今年2番目の高水準を記録している。輸出は年明け以降回復へ向かうものの、燃料輸入の拡大などを背景に輸入は高水準が続くため、2013年も貿易赤字は継続が見込まれる。なお、GDPベースの純輸出と連動する実質ベースの貿易収支は10~11月平均が7~9月平均を14%程度下回っており、外需は10~12月期も日本経済を大きく下押しする見込みである。

## 【11月の仕向け地別輸出動向】

11月の輸出動向を仕向け地別に、当社試算の実質ベース季節調整値で見ると、上述した中国向けの減少（11月前月比 2.8%、10月 5.9%）を主因に、アジア向けは1.8%（10月 4.4%）と減少が続いた。NIEs向けは0.2%（10月 2.7%）とほぼ横ばいだったが、ASEAN向けは1.2%（10月 2.5%）と振るわない。ASEAN向けは、金属関連や電気機器が伸びたものの、輸送用機器の大幅減少（11月 16.3%）と一般機械の低調（11月 3.2%）が響いた。

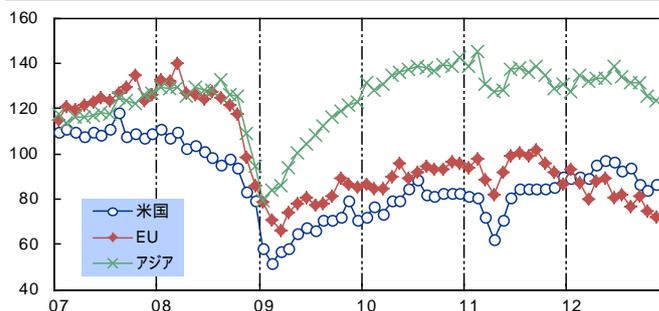
米国向けは11月に前月比2.6%（10月 3.0%）と3ヶ月ぶりの増加に転じた。販売好調な自動車が1.9%（10月 8.9%）と伸びたほか、電気機器も増加している（11月 4.8%）。但し、10~11月平均は7~9月期を6.4%下回っており、戻りは鈍い。「財政の崖」に伴う不透明感が在庫圧縮を通じて、日本からの輸出を下押ししていると考えられる。EU向けは3.2%（10月 8.2%）と2ヶ月連続で減少した。10~11月平均は7~9月期を8.0%も下回っており、5四半期連続の減少が必至である。言うまでもなく、欧州経済の低迷がその背景にある。

実質輸入の推移（実質、2005年基準、10億円）



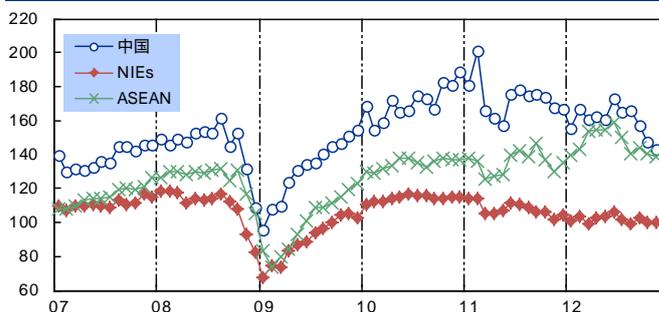
(出所)財務省、日本銀行

地域別実質輸出の推移（2005年=100）



(出所)財務省、日本銀行

対アジア実質輸出の推移（2005年=100）



(出所)財務省、日本銀行

<sup>1</sup> 但し、自動車を中心とした輸送用機器の輸入は、エコカー補助金終了による日本国内の販売減を受けて、一服している。